

## 1. 略歴

平成4年3月	京都大学文学部文学科卒業（文学士）
平成4年4月	京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻入学
平成6年3月	京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻修了（文学修士）
平成6年4月	京都大学大学院文学研究科博士後期課程梵語学梵文学専攻進学
平成12年3月	京都大学大学院文学研究科梵語学梵文学専攻博士後期課程中途退学
平成8年9月	ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程入学
平成12年12月	ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程卒業（Ph.D）
平成12年4月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 COE 非常勤研究員（平成13年3月まで）
平成13年4月	白鷗大学経営学部専任講師（平成17年3月まで）
平成17年4月	白鷗大学経営学部助教授（平成19年3月まで）
平成19年4月	白鷗大学教育学部准教授（平成22年3月まで）
平成22年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授（現在に至る）

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

歴史言語学、音韻論、インド・アーリア語、ドラヴィダ語、オーストロアジア語

### b 研究課題

インド・アーリア語、とくにサンスクリットの音韻論と、ドラヴィダ語族、オーストロアジア語族言語のフィールドワーク

### c 概要と自己評価

インド・アーリア語についてはサンスクリットを中心として他の印欧語族言語と比較し、音韻上の特性を記述した著書を出版した。ドラヴィダ語族では、北部の2つの少数民族言語について、現地調査を重ねて文法記述を進めている。

### d 主要業績

#### (1) 著書

Masato Kobayashi, 『Texts and Grammar of Malto』、Vizianagaram: Kotoba Books、2012

#### (2) 論文

Masato Kobayashi, 「The attributive locative in the Ṛgveda」, 『Sahasram ati Srajas』、Ann Arbor: Beech Stave、2016、206-215.

Masato Kobayashi, 「Origin of redundant agreement in Malto *-ke* converb」, 『V.I.Subramoniam Commemoration Volume, Vol. 1』、Thiruvananthapuram 2015

Masato Kobayashi, 「Origin and Development of Sanskrit *-yy-*」, 『Vedic and Sanskrit Historical Linguistics: Papers of the 13th World Sanskrit Conference』、Volume III、2014.1

#### (3) 学会発表

海外、Masato Kobayashi, “Patanjali on the borderline cases of compound classification”, 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, Thailand, 2015.6.29.

国内、小林正人、「インド・アーリア語における場所格の連体修飾」、日本言語学会、愛媛大学、2014.11.16

## 3. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義等

非常勤講師、京都大学文学部、「インド古典学特殊講義」、2014.10～2015.3

### (2) 学会

国内、日本言語学会、常任委員、2012.4～

### (3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

教育機関、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、運営委員会委員、2013～

教育機関、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、研修専門委員会委員、2016～